

# よろいを着た古墳人だより



公益財団法人  
群馬県埋蔵文化財調査事業団

## 金井東裏遺跡ってなにがすごいの？

金井東裏遺跡（群馬県渋川市）は、榛名山のふもとにある古墳時代の遺跡です。今から1500年前の6世紀のはじめに榛名山が大きな噴火をおこしました。このときに降り積もった火山灰にうもれてしまったのが金井東裏遺跡なのです。

1500年前の噴火は、古墳時代の人たちに大きな被害をもたらしました。火山灰によって当時の社会がすっぽりおおわれてしまったのです。

そして、火山灰の下には、古墳時代の暮らしや噴火のあとがそのままの姿で残されることになりました。

このことが、金井東裏遺跡のすごさにつながっているのです。

さあ、金井東裏遺跡で発見された注目ポイントを見ていくことにしましょう。



榛名山を東から見たようす。▽が金井東裏遺跡です。



### ■注目その1 ～よろいを着た古墳人

よろいを着た古墳人は火山の噴火にまきこまれていました。身長 164 cm、40 代の男性で、小さな鉄板をつなぎ合わせたよろいを着ていました。このよろいは前方後円墳から出土することが多く、豪族の所有品と考えられます。



発見されたばかりの「よろいを着た古墳人」

### ■注目その2 ～火山灰のうへの足あと

最初に降り積もった火山灰のうへの足あとがたくさん見つかりました。ほとんどがはだしで、ふみしめるように歩いていたことがわかります。おそらく、人を背負ったり、荷物を持ったりしていたため歩いてひ難したのでしょう。



たくさんの足あと

指もくっきり。はだしの足あと

### ■注目その3 ～3人の古墳人

よろいを着た古墳人のまわりから3人の古墳人が発見されました。乳児の古墳人は頭骨のみ、幼児の古墳人は5さいくらいで、性別は不明です。首かざりの古墳人は身長 143 cm、30 代の女性で、ガラス玉をつなげた首かざりをつけていました。



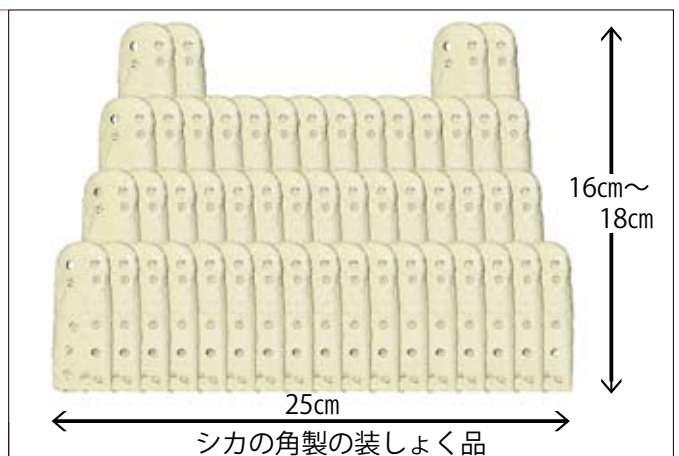
幼児の古墳人

乳児の古墳人

首かざりの古墳人

### ■注目その4 ～日本初、シカの角製の装しよく品？

よろいを着た古墳人の近くから、もう一つよろいが発見され、その中からシカの角で作られた小さな板が50枚見つかりました。復元してみると胸あてのようにも考えられます。よろいにつける特別な装しよく品だったのでしょか？



シカの角製の装しよく品